

智頭往来の峠に
願いを込めて

しとさか 志戸坂トンネル



智頭往来は鳥取城下から千代川沿いに河原・用瀬・智頭を通り志戸坂峠に至る道で、国道 53 号、国道 373 号がそのルートをはば踏襲しています。古くから因幡と畿内方面を結ぶ道で、国司の赴任時に、また鳥取藩主の参勤交代に利用され、上方往来とも呼ばれていました。

江戸時代には現在よりさらに高い峠を越えていましたが、明治 18 (1885) 年から荷車や馬車が通行できるよう掘り下げたため、現在の峠道の頂上は標高 581 m です。幅を 4 m に広げるとともに、法面の崩落防止のために石垣を築きました。この時の石垣とともに開鑿碑と刻まれた石碑が当時の様子を伝えています。ただ、志戸坂峠は険しい道のりで、特に冬季に通行する旅人は難儀な道のりだったようです。

昭和 9 (1934) 年、志戸坂峠の下を通る志戸坂トンネルが総工費 32 万円で完成しました。その当時志戸坂トンネルは全国 2 位の長さを誇りましたが、延長 565 m のトンネル付近はカーブが多く急坂の連続で、その上冬季は積雪により通行も難しく、大型化する車両にとってこの道は苦勞の道でした。しかし、高速道路の建設は進み、県境付近の交通量も中国自動車道の開通で飛躍的な伸びを見せていました。こうした現状をふまえて、標高を下げた新しいトンネル計画が浮上し、ついに昭和 56 年、全長 1630 m、幅員 9 m の新志戸坂トンネルが完成しました。現在ではこのトンネル部分を含めて中国横断自動車道姫路鳥取線として地域の期待を担っています。

「^{ししとみさか}鹿跡御坂」とも「^{こまがえり}駒帰坂」ともいわれる志戸坂峠は、平安時代には峠で「^{さかむかひ}境迎」の儀式を行い、あるいは国境で入国者を見張っていたことから「人見坂」とも呼ばれていました。単に難渋する峠というだけでなく、行きかう人にとって重要な峠であったことを示しているように思います。

志戸坂トンネルの開通に伴い現在は閉鎖された旧志戸坂トンネル。かつて峠の向こうに期待した息吹を、新しい鳥取自動車道が運んでくれることを、志戸坂の地蔵様も願っていることでしょう。

■位置図



志戸坂峠頂上へ向かう道
車馬の通行のために明治中期に旧往来を掘り下げ、石垣で保護した姿をとどめる。



昭和 9 年に開通した旧志戸坂トンネルは志戸坂トンネルの完成で閉鎖。銘板には志戸坂隧道とある（鳥取県側）。



志戸坂トンネル
昭和 56 年に志戸坂トンネルが完成



志戸坂トンネル付近から智頭方面へ延びる志戸坂峠道路